令和元年度第2回市民ボランティア講座『身近な災害対策を知っておこう』を開催

講演する中村氏

心肺蘇生法のデモンストレーション

令和２年１月31日(金)に弘前大学大学会館３階 大集会室にて、今年度２回目となる市民ボランティア講座「身近な災害対策を知っておこう」を開催しました。

本講座は弘前市における豪雨災害時の災害対策を学ぶとともに、弘前市民に被災時のボランティア活動についてその実情と重要性を幅広く理解してもらうため、避難所設営のための資材の組み立てや防災食の試食などの予備体験、災害対応をカードゲーム「クロスロード」基調講演および、救急救命講習の３つの体験講習を実施し、47名の参加がありました。

第１部では、近年頻発する大災害の中でも、台風による被害が昨年・今年と広範囲に及んでいることから「弘前市の水害時における洪水ハザードマップと災害対策」と題して弘前市総務部防災課防災係長 中村 智行 氏にご講演いただき、洪水ハザードマップの正しい活用方法や豪雨災害時の正しい情報整理の仕方、有事の際の安全かつ迅速な正しい対応について学びました。中村氏からは、「豪雨・洪水災害は地震・津波災害と同じで、いつどこで起こるかわからないと考えられており、正しい情報を正しく活用することが重要」と講演がありました。

第２部では、青森県防災士会副代表理事・弘前支部長の工藤 廣道 氏による災害対応カードゲーム「クロスロード」を体験し、災害避難所における救援物資の配分、ボランティアの受入、公共施設の開放などについて様々な状況を想定した対応について、参加者も一緒に考えました。続いて、弘前医療福祉大学救急救命研究会による救命講習も実施し、緊急時の人命救助の手順や心構えなどについて学ぶとともに、「女性への心肺蘇生の実施率が男性への実施率に比べて低い現状があるため、女性へ実施する際には周りを人で囲み、AED使用時にはジャケットなどをかけてあげるなど配慮し、実施率をあげていく必要がある」と有事の際の課題についても情報提供がありました。第２部の最後には、弘前市防災課からご提供いただいた防災食の試食体験を弘前大学ボランティアセンター学生事務局が行い、試食した参加者からは「意外とおいしい」「普通にご飯にとしてでてきそう」など好意的な意見が寄せられました。

本センターでは災害に関する知識や活用方法は継続して学ぶことが重要であると考えており、今後も継続して防災に関する講座を実施する予定です。

救命講習を行う救急救命研究会

災害対応カードゲームを行う工藤氏

試食した防災食(提供：弘前市)

青森県警察サイバー防犯ボランティア委嘱学生への感謝状贈呈式

式後の記念撮影

令和２年２月４日（火）に、本学の青森県警察サイバー防犯ボランティア委嘱学生のうち、今年度卒業または修了する学部４年生及び大学院修士課程２年生の計５名が、青森県警察本部生活安全部から感謝状が授与されました。

感謝状贈呈式は本学大学会館内で開催され、当日は農学生命科学部４年石井優璃さんと、農学生命科学部４年吉田奈央さんが出席し、青森県警察生活安全部 酒井　徹部長から、「児童買春や児童ポルノに関する SNS などを通じた事件が全国で発生する中、サイバー空間のパトロールだけでなく児童や生徒に直接講話を行い、サイバー防犯の普及に尽力された功績は大きく、改めて感謝したい」との祝辞とともに感謝状が贈られました。

当該ボランティアの委嘱は、青森県警察本部生活安全部と本学ボランティアセンターが連携し、平成 29 年度から実施されている取り組みで、委嘱学生はサイバー空間のパトロールや小中学生へのサイバー防犯に係る講演活動などを行っています。

本学ボランティアセンターでは、青森県警察本部生活安全部と連携しながら来年度も引き続き、サイバー防犯ボランティアに係る活動を継続する予定です。

吉田奈央さん(写真左)と石井優璃さん(写真右)

贈呈式の様子

弘前大学ボランティアセンター（HUVC）　平日午前10時～午後３時
〒036-8560　青森県弘前市文京町１番地
TEL：0172-39-3268　FAX：0172-34-5251　E-mail：huvc@hirosaki-u.ac.jp

2020年３月 発行
弘前大学ボランティアセンター（HUVC）
News Letter
第９号

台風１９号災害支援活動（岩手県野田村）

令和元年10月12日に日本に上陸した台風19号は、関東地方から東北にかけて甚大な被害をもたらしました。岩手県野田村も河川の氾濫や土砂崩れなどの被害に見舞われたことから、弘前市からバス運行の協力を得て、２回の災害支援ボランティア活動を実施しました。

【2019年10月20日】

令和元年10月20日(日)午前６時30分、市民７名、教員１名、弘大生27名の合計35名で弘大正門前を出発し、９時45分、目的地の野田村保健センターに開設された野田村ボランティアセンターへ到着しました。

野田村ボランティアセンターから割り振られた活動場所へバスで移動し、早速活動を開始しました。

現場は木造家屋の裏山の土留めが崩壊したため土砂崩れが発生した状況で、建物自体が坂の途中で重機が入れず、全て手作業で土砂の排出となりました。午前は10時頃から11時45分まで、午後は１時15分から３時まで、土砂のかき出し、瓦礫の撤去、土砂の搬出などが主な作業でした。スコップで土砂を土嚢に詰めたり、瓦礫のトタン屋根や木片などは坂を下りて道路まで運んだり、岩石をわきに寄せたりと、力仕事がメインでした。

スコップを持参できたのは市民の方数名でしたが、足りないスコップや鍬は現地の方が貸してくださいました。重機が使えないこのような現場では多くのマンパワーの協力が必要なことを実感しました。

出発時間ぎりぎりまで作業をしましたが、それでも全ての土砂を撤去しきれず、もっと時間があればと思いました。

また災害支援の実施があれば是非参加して力になりたいと思います。　　（担当：人文社会科学研究科１年　松本　知也）

【2019年11月2日】

朝、６時30分に大学の正門を出発し、岩手県野田村に向かいました。少し寒い朝でしたが、きれいな晴天でお昼頃には17度まで上がる予想でした。今回の参加者は教員１名、学生10名、市民15名、全部で26名の参加でした。

行きのバスの中では、恒例の自己紹介がありました。ニュースや新聞などで災害の様子をみて何かしたいという気持ちで参加した初参加の学生や市民の方が多く、今回の災害に関する関心の高さを改めて感じました。

10時頃には計画通り、野田村の社会福祉協議会に到着しました。

スコップなどの準備を済ませて、野田村社協の担当者と作業現場に向かいました。本日の作業現場は野田村の下安家地区でした。依頼者宅は急斜面に面しており、裏山の土砂崩れで物置小屋が流され、住宅にぶつかっていました。

作業内容は、流れてきた土砂を土嚢袋に詰めて、斜面の下まで運ぶことと、流された物置小屋を元の位置に戻す作業でした。重機が入れず、すべて手作業だったため、大変な肉体労働でした。そして、重い物置小屋を動かすのは大変危険な作業でもありました。

大人数が一緒に取り掛かったことと、様々な現場を経験したベテランの市民ボランティアのおかげで、比較的手際良く、スムーズに活動を行うことができました。そして誰一人けがすることもなく、無事に終えることができました。依頼主の方や野田村から参加した市民ボランティア、黒石から参加した方まで、最初から最後までワンチームで頑張りました。

最後の依頼主のおじさんの笑顔が何とも言えなかったです。

帰りのバスの中での感想では、「肉体的には大変だったが、とっても有益な一日でした」、「依頼主の高齢のお父さんがありがとう、ありがとうと言ってくださったことが忘れられない」、「初めての活動で最初は大変不安でしたが、ベテランボランティアの的確な指示で、安心して活動できました」などの大変嬉しい声が多かったです。

みなさん、お疲れ様でした。そして、ご協力ありがとうございました。

（担当：李　永俊）

10月20日の集合写真

がれきの搬出もすべてマンパワーで

11月2日の集合写真

土嚢リレーでの搬出作業

令和元年台風19号災害支援金募金活動を実施

令和元年台風19号は、東海から東北に渡る広範囲で甚大な被害をもたらしました。

そこで本センターでは、災害緊急対応として、弘前大学文京キャンパス大学会館前にて、12：00~12：30の時間帯に学生による募金活動を実施し、本学教職員や学生の皆さん、一般市民の方々からご支援をいただきました。

当センターの募金活動は、被災地やボランティア活動団体の支援金を募るとともに、災害の記憶や、自身の備えにつながる危機感を風化させないことを目的の一つとして実施しております。集まった募金は本センター運営会議の承認を受け、適切な受入先に贈呈する予定となっています。

※募金の贈呈先は当センターのホームページや次号ニュースレターでご報告いたします。

《参加学生の感想》

10月30日(水)に募金活動に参加しました。昼休みという短い時間にも関わらず、呼びかけを行うと、遠くにいたのにわざわざ募金に来てくださる方がいたり、多くの方がご協力してくださいました。募金活動は初めての参加でしたが、たくさんの方々の優しさに触れることができ、とても温かい気持ちになりました。

（担当：農学生命科学部２年　小林丈太郎）

10月16日の活動の様子

10月23日の募金活動の様子

令和元年度第1回市民ボランティア講座『人が繋がる地域の居場所づくりについて』を開催

講演する山屋氏

令和元年12月６日(金)令和元年度第１回市民ボランティア講座「人が繋がる地域の居場所づくりについて」を開催しました。

本講座は、子どもの貧困問題・孤食問題への対応策の一つとして全国に広まっている子ども食堂について、子ども専用の食堂ではなく、人が繋がる地域の居場所づくりとしての子ども食堂についての理解を広めるために実施したものです。

第１部の基調講演では特定非営利活動法人インクルいわて理事長、子どもの居場所ネットワークいわて共同代表の山屋 理恵 氏を講師に迎え、「子育て支援で地域と未来が変わる！～人生100年モデルを作ろう～」と題して講演が行われました。山屋氏からは、人口減少、人生100年時代、家族類型の変化など、社会が大きく変化している反面、雇用システムや社会の固定観念はそのままになっていることから、ひとり親家庭に相対的貧困が生まれやすくなっていることや、子どもの貧困の解決には子ども支援だけでなく親支援が必要であること、ソーシャルキャピタルの重要性などについての説明があり、それらが社会的な孤立を生んでしまっていることに注目するべきであり、だれも孤立しない地域をつくる仕組みのひとつが「子ども食堂」であることについて講演がありました。

第２部は、基調講演講師の山屋氏、八戸学院大学健康医療学部人間健康学科 准教授 佐藤 千恵子 氏、青森県社会福祉協議会 社会貢献活動推進室長 の葛西 裕美 氏の３名をパネリストに迎え、本学人文社会科学部教授・ボランティアセンター副センター長 李 永俊の進行のもと「子ども食堂に係る本県の現状と課題について考える」をテーマとした、パネルディスカッションが行われました。弘前市、青森市、八戸市それぞれの子ども食堂の開設状況と課題について情報提供があった後に、小学校区に対する本県の子ども食堂の充足率について議論が交わされました。その後は行政と子ども食堂の連携についてなどについて議論が交わされ、参加者もディスカッションに参加し、活発な意見交換がなされました。本学教育学部の学生からは「学習支援活動を行っているが、ボランティアの安定的な確保が難しい」などの意見に、パネリストから様々なアドバイスがあり、最後に李副センター長から、子どもを取り巻く問題は地域全体が連携し、活動していく必要があり、必要な情報を地域全体に届けられるよう取り組んでいくと総括がありました。

会場の様子

パネルディスカッションの様子

野田村クリスマス会を開催

12月21日(土)野田村の小学生を対象に野田村リメンバーホープヴィレッジ「ねま～る」で実施し、本学教員１名、学生事務局４名、講師２名、小学生20名の合計28名が参加しました。

今年度は初の試みとして、弘前市のストリートダンススタジオFUNKYSTADIUMから、ダンスインストラクター２名を講師にお招きし、ダンスパフォーマンスや簡単なダンスレッスンを行いました。

受付の様子

元気いっぱいにダンス

令和元年12月21日、岩手県野田小学校の子どもたちを対象にしたクリスマス会に参加しました。

８時50分に弘大正門前を出発し、12時頃、会場のねま～るに到着して準備を開始しました。

12時30分から受付を開始すると、友達や家族の方と一緒にぞろぞろと子どもたちがやってきました。受付で名札を作って胸に張り付け、準備完了です。

今回は20人の子どもたちが遊びに来てくれました。

いよいよダンス教室がスタート。鏡の前でダンスの先生が見せてくれる動きをお手本に、跳んだり回ったり、左右にステップしたり…いろいろな動きにチャレンジ！子どもたちも一生懸命に踊ってたくさん汗をかいていて、休憩になると、お茶やジュースを勢いよく飲み干していました。

最後は音楽に合わせて踊ったり、小さい子グループと、中・高学年グループに分かれて見せ合いっこもしました。いきいきとした表情でダンスをする子どもたちに、こちらが元気をもらいました。

ダンスを楽しんだ後は待望のパフェづくり。お菓子や果物、ホイップを自分で盛り付けて作ります。準備されたお菓子に興味津々だった子たちから「やったー」と歓声があがりました。各々が自由に具材を組み合わせてパフェづくりを楽しんでいました。特に人気だったトッピングは、粒チョコレートと缶詰のミカンでした。また、おかわりする子も続出していました。

楽しかったクリスマス会の時間あっという間に過ぎ、いよいよ終わりです。みんなでごちそうさまの挨拶をした後に、東目屋の農家の方からお預かりしたリンゴを子どもたちに配りました。

みんなリンゴのお土産にとても喜んでくれました。たくさんの笑顔が見られ、喜んでもらえたことがとても嬉しかったです。前回も参加した子で、学生スタッフのことを覚えてくれている子もいました。今回のような交流が積み重ねられる中でつながりがさらに深まっていくことと思い、また参加したいと思いました。

（担当：弘前大学教育学研究科１年　古川　弘基）

りんごのプレゼント

パフェ作りも盛り上がりました

ボランティアへのご参加、募集等について

ボランティアへの参加について

ボランティアに関心をお持ちの方は下記までお問合せください。

- 弘前市民の方　・・・・**弘前市ボランティア支援センター　TEL：0172-38-5595**
- 弘前大学関係者　・・・**弘前大学ボランティアセンター　E-mail：huvc@hirosaki-u.ac.jp**

学生ボランティアの募集の周知依頼、派遣依頼

学生ボランティアを募集したい団体からの周知、派遣要請を受け付けております。
詳しくはボランティアセンターのホームページをご覧いただくか、センターへ直接お電話等でご相談ください。
（※各種申請書類提出後、団体登録の可否、ボランティア要請の審議をさせていただきます。
審査等に期間を要しますので、余裕を持って登録申請等行っていただきますようお願いいたします。）

- 弘前大学ボランティアセンター　・・・**HP：https://huvc.net/　TEL：0172-39-3268**
  平日午前10時～午後３時